



届ける。
つくる。
伝える。

高野 VOL.73 新聞

市民の声を市政に届ける。明日のための政策をつくる。市政の今を正しく伝える。それが市議会議員の基本。いつもこの原点を忘れない。私の約束です。

高野たけし

41歳の略歴

- 1972年11月12日生まれ。逗子市久木在住
- 関東学院大学卒業。中央大学大学院博士前期課程修了。



- 大学生時代はウインドサーフィン部に在籍し海生活の中心に。大学3年、4年時には全国学生選手権団体戦で優勝を果たし、2年連続でオリンピック艇種の世界選手権日本代表メンバーに選出される。



- 大学卒業後は(株)セガエンタープライゼスに入社、約6年間のサラリーマン生活を経て、29歳で逗子市議会議員選挙に出馬し初当選(以後3期連続当選)。
- 趣味はウインドサーフィンと読書。家族は妻との二人暮らし。

市民の意見を

届ける。

- 東日本大震災発生後に防災対策強化のための**市民アンケート**を独自に実施しました。そこで寄せられた意見を元に、**市長に改善要望書**を提出しました。



その成果として、①海岸へのハザードマップ掲示、②市内電柱への標高(海拔)表示、③食糧医薬品等の備蓄の拡充、④津波ハザードマップ改訂、⑤海岸付近道路への避難経路掲示など市民の不安や意見を反映した多くの改善策を実現しました。

- 沼間の急傾斜地への開発が浮上したケースでは、地域住民と連携し生活環境の悪化を防ぐため**当該開発案件をストップ**。その対案として、高齢化が進む本市の課題である「特別養護老人ホーム」を当該地に誘致しました。

明日の政策を

つくる。

- 不妊治療の中でも**特定不妊治療**は1回の治療費が高額で、経済的負担も大きいことから治療の継続を断念する人が多いと言われます。

そこで**市単独での助成制度創設**を市長に提案、神奈川県に上乗せする形で補助を受けられる制度の創設にこぎつけました。

- 商店街や駅前**の放置自転車問題**を解決するため、駐輪施設の設置・拡充を要望しました。**JR逗子駅前**では市役所横の公有地に、**逗子海岸**は海水浴場開設時期は砂浜へ駐輪施設を設置し、放置自転車の減少につなげました。また逗子海岸近くの新宿会館横の公有地も、来年度から海水浴場開設期間に限り無料駐輪場として活用する方向で調整がはじまりました。



- 中学生やその親御さんの声を受け、**市立中学校への完全給食**の導入を提案。平成26年10月からボックスランチ方式導入を予定しています。
- 現行制度では小学1年生までの**小児医療費の助成枠拡大**を提案。平成26年度から小学3年生まで拡大する方向で協議が進められています。

市政のいまを

伝える。

- 厳しい財政状況を打破するため、いち早く**事業仕分け制度**を実現させました。その際、市の財政状況への理解を深めるため、**市民参加型の仕分け作業**に。

50人超の市民が564事業をチェックし大きな成果を上げました。

- 初当選以来続けている**高野新聞の発行回数**は**72回**。街頭配布も欠かさず行っています。



届ける。
つくる。
伝える。

中学 校の完全給食導入後もアレルギー食の対応など、きめ細かいサービスが求められています



小児 医療費助成制度のさらなる拡充で、近隣自治体との格差の解消が望まれています



届ける。
つくる。
伝える。

たかの
たけし



待機 児童解消に向け市立保育園の児童枠の拡充や民間保育園の誘致など施策の強化が必要です



市民の
意見を

届ける。

高齢 化著しい逗子市にとっては特別養護老人ホームの誘致も重要な課題です



災害 弱者対策として、要援護者避難態勢の強化や避難所への介護用品備蓄が重要です



明日の
政策を

つくる。

養浜 対策や原因調査に力を入れて、砂浜の減少に歯止めをかける必要があります



街頭 での「高野新聞」配布を通じて、市民に関われた活動を展開します



市政の
いまを

伝える。